

# 芝』を語る

2月2日、實川堅司郎町長の政治指針である『開かれた町政』の一環として、「これからの我がまちを語る会」が、町文化会館で開かれました。

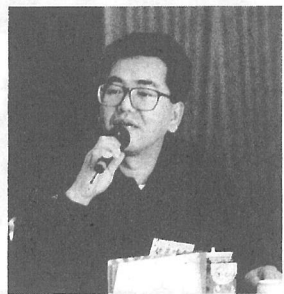
この会に出席したのは、町内に住む20歳代から70歳代までの30名、そして町側からは、町長をはじめとする特別職と課長が出席しました。

はじめに實川町長から、いま町が抱える諸問題や次期5か年計画に基づく施策についての話があり、そのあと『魅力ある横芝』にするにはどうしたらよいか、についてさまざまな意見が出されました。

今号では、そのときの概要をお知らせします。

## 海を活かした観光

「魅力あるまち」というのは、そこに住んでいる人



が、どれだけ自分のまちに自信がもてるか、ということだと思います。自ら自信のないまちを、ほかの人にいいまちだろうって押し売りするのはおかしいと思うんです。

この会に出るまえに、近くに住む友人5・6人と話し合いをしたんですが、そのときに、こんな話が出ました。

夏になるとこの海もお客さんでいっぱいになる。でも、横芝の屋形海岸は人もまばら。自分自身のことを考えてみても、隣のウォーターカーテンや木戸浜に行ってしまう。どうしてか？ということでした。

海に通ずる道路ひとつとっても、複雑で分りにくいのが現状です。話しているうちに、横芝にも海があるんだ、ということをもっと知ってもらいたい。そして、その周辺の自然を活かした観光をすすめるべき

——。海まで分かりやすい

道路をつくり、たとえば、キャンプ場やモトクロス場など、若者が目的意識をもって訪れるような施設をつくること、これからの『横芝観光』に必要なではないかと思いました。

## 安心できるショッピングゾーン

約10年前のことですが、駅前通りを大型車通行止めにして欲しいと頼んだことがあります。駐車場の少ない状況のなかで、お客さんが安心して買物ができるようにしたいと思ったからです。交通規制にはいろいろな条件があり、むずかしいことはわかりますが、規制という手段だけにとらわれず、町が目指す駅周辺の再開発と併せて取り組めば、安心できるショッピングゾーンがつけられると思います。

## ごみのないきれいなまち

これからのまちづくりを考えると、

が行われました